

『これは主がなさったこと』(詩篇 118 篇 1-29 節) 2023.4.2.

<はじめに> 年度替わりの時は各所で人の異動が見られます。去る人、来る人があり、選び選ばれた結果です。人の世では選ばれた者が注目されますが、22-23 節では捨てられた石に焦点が向けられています。まことに「私たちの目には不思議なこと」です。

I 詩篇 118 篇について

①繰り返されている句

「主に感謝せよ。主はまことにいつくしみ深い」() 「その恵みはとこしえまで」()
「さあ…言え」() 「主は私の味方」() 「主に身を避けることは…よりも良い」()
「私を取り囲んだ…主の御名によって私は彼らを断ち切る」() 「主の右の手は…」()

②祭りの詩

主の家(26)、門(19,20)や祭壇(27)が出て来て、そこでの祭りに集う群衆が見て取れます。1-4 節はコール&レスポンスで、その群衆を前に賛美を呼び掛けています。「私」の賛美が、やがて「私たち」(23,26,27)へと広がり、群衆は「祭りの行列」(27)となって行きます。

③内容と構成

1-4 節: 賛美への呼び掛け	19-21 節: 個人的な礼拝と感謝
5-9 節: 個人的な信仰告白	22-27 節: 祭りの同胞による賛歌
10-18 節: 敵からの圧迫と主による救い	28-29 節: 賛美の主題の確認

II 不思議なこと(22-23)

①取捨選択(22)

建てる者は目的に合った石を選び取ります。その選択が建物全体の成否に関わります。自分の意に沿うものを選ぶ中で、当然選から漏れるものもあります。人の世でも同じです。

②要石(22)

建てる者が一度捨てた石の中から、一つを取り出し、最後に据えます。建物のアーチの一番上に置かれる石としてです。作者はその様子を見て、神がくださったことと結び付けます。「主は私を厳しく懲らしめられた。しかし、私を死に渡されはしなかった」(18)と。

③神の選びはユニーク(I コリント 1:27-28、23)

「神は、知恵ある者を恥じ入らせるために、この世の愚かな者を選び、強い者を恥じ入らせるために、この世の弱い者を選びました。有るものを無いものとするために、この世の取るに足りない者や見下されている者、すなわち無に等しい者を神は選ばれたのです。」

III じゆな

①新約聖書にも

22-23 節は度々引用されています。イエスはマタイ 21:42、マルコ 12:10-11、ルカ 20:17 で、自身を捕らえて殺そうとしている人たちに、この箇所を警告を添えて示されます。またペテロは使徒 4:11、I ペテロ 2:7 で、十字架で死に甦られたイエスと結び付けています。

②「ホサナ」の叫び声

今日はパームサンデー、イエスが入京された日です。人々は「ホサナ、ホサナ、ダビデの子」と歓迎しました。ホサナは 25 節が元意です。しかし 5 日後には、人々はイエスを十字架に架けて殺します。しかし、神はイエスを 3 日後に墓の中からよみがえらされました。

③主のなさったこと

主イエスも人々に捨てられましたが、神はこの方を再び生かされました。似たような経験を持っている方はいませんか。21 節はその賛美です。神は私たちにもこの聖句にあることをしてくださると期待しますか。25 節はその祈り、叫びです。

<おわりに> 主がしてくださったすばらしい救いの御業を経験している人は、大いに感謝し、主の恵みといつくしみを味わい返しましょう。そして、私たちに恵みによって選んでくださった神は、これからも救い出してくださると期待して、「ホサナ」と叫ばせていただきます。(H.M.)